

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>ホームの理念は作り上げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念はホーム内随所に明示しており、理念の実践に向け努力している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>御家族には入居時に説明し、パンフレットにも解りやすく記載されているので、理解して頂いていると思う。地域の人々には、町内会の会合に出席し説明はしているが理解とまではいっていないと思う。</p>	○	<p>今以上に、町内会の会合等、積極的に参加してグループホームの事を伝えていく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>周辺が飲食店、商店なので、出前を取ったり、外食、買い物に出掛ける事により、隣近所の人に顔を覚えてもらうよう努めている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に入り、ホーム、認知症への理解を求め努力はしているが、地元の人々の関心は得られていない。</p>	○	<p>今後は地域活動に積極的に参加し、地域の人々と交流していきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>まだ、取り組めていない。</p>	○	<p>キャラバンメイト研修を活かして地域の高齢者の不安や相談事に役立つような催し物を開く。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングで説明しているので、職員全員が実施する意義を理解している。評価を活かし、来ていない所、改善すべき点はフロアミーティングで話し合いを行っている。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域町内会(やよい会)との協力体制が取れてきた為、より近隣の住民に理解頂く会議を推進していく。	○	より町内会と連携し、積極的にホーム運営に理解していただく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム協議会に加入しているので、頻繁に行き来し、情報交換をしながら、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は必要な入居者様には支援しているが、地域権利擁護事業や成年後見制度について職員全員が学び、理解していない。	○	今後、講習会などがあつたら積極的に参加するようになる。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待が見過ごされる事が無い様注意し、防止の徹底をしている。	○	勉強会を開催し、職員同士、お互い注意しあえる関係を築いていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時には十分な説明を行い理解・納得を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>職員は入居者様一人一人の話しを良く傾聴し、意見や苦情など出来る限り運営に反映させるよう努めている。又、入居者様が御家族来訪時に訴え、御家族からも意見、不満、苦情を頂いている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>御家族来訪時には入居者様の近況をお伝えしたり、お小遣い帳のチェックをしてもらうようにしている。月に一度、お手紙とふれあい便りで近況報告もしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会が作られている。又、1階にご意見箱を設置しているので、意見、苦情などには早急に対処するようにしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一度の全体ミーティングで、意見の交換は行われている。職員の意見を考慮しつつ出来る限り反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者様の状況の変化に伴い、職員を増やすなど勤務の調整に努めている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員のフロア異動は入居者様の不安を招かないよう、1～2人の異動にとどめている。現在、サービスの質の向上、応援体制がスムーズに取れる事を目的に、<u>フロア異動を実施しているが</u>、一部、不満を訴える入居者様もいる。</p>	○	<p>職員の異動、離職は、入居者様に不安を与えないよう配慮していく必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受ける機会を確保している。	○	今後は職員同士での勉強会の機会を作っていく必要がある。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会に参加し、情報を交換している。又、同列会社のグループホームと交流があり、色々な活動を通してサービスの質の向上に役立っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	1～2ヶ月に一度、親睦会を行っている。	○	職員のストレス軽減となるものを、職員の意見を聞いて取り組んでいく。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は職員全員の事を把握出来てないと思うが、懇親会を開いたり、個別で面談を行ったり努力はしてる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に面談を行い、よく聴く機会をつくり受け止める努力をしている。入居後も一人一人、居室でゆっくりお話しする時間を作っている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に面談を行い、よく聴く機会をつくり受け止める努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族が必要としている支援を見極め対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学、体験入居をして頂き、本人が安心して入居できるよう十分に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の中で、利用者様それぞれの特技(裁縫・料理・包丁砥ぎ等)を発揮して頂き、職員はそこから学び、支えあう関係を築く様努力している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族にイベントの参加を呼びかけたり、病院受診を一緒に行って頂いたり、共に利用者様を支えていく関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来訪時にはゆっくり、お話し出来る様に配慮している。一部の入居者様の御家族は入居をきっかけに、絶縁状態となっている方がいらしゃる。	○	継続してホームから御家族へ連絡を取りながら、本人との関係を改善できる様支援していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人の来訪や、手紙、電話など馴染みの人との関係が途切れないよう、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常生活や、レクリエーションの中でそれぞれが助け合ったり、利用者様同士が関わり合い支え合えるよう職員が間に入り、配慮している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	今まで退去された方はグループホームでの生活が困難になり、長期入院を余儀なくされた方である。職員が病院へ会いに行く事はあるが、継続的な関わりはしていない。	○	ケースによって、イベント参加やホームへ立ち寄ってもらえる様声掛けをして、継続的な関わりを持ちたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ゆっくりお話する時間を大切に、一对一の時は本音を聴き出せるよう努めている。それにより、一人一人の希望、意向の把握に努め、個人を尊重した支援をしている。センター方式シートを活用。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	お話を傾聴し、把握に努めている。センター方式シートを活用。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	現状を把握するよう、常に目配りし配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、御家族の意向、フロアーミーティングでの職員の意見も取り入れた介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎の見直しを行うとともに、変化が生じた場合は現状に即した新たな計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を細かく記録し、会話の内容等も具体的に記録し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	和室があり、御家族の希望により宿泊可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	三ツ山病院栄養士によるカロリー計算の勉強会や、ボランティアによる、音楽療法、貼り絵教室、三味線、フラダンスなどを行っている。又、消防避難訓練を予定している。	○	市消防局主催訓練、救命救急の講習会への参加もしていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在はされていない。	○	今後、本人の意向も聴き、取組んでいきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在、必要性がなかったので対応していない。	○	今後、本人の意向や必要性に応じて地域包括センターと協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>提携病院の看護師に相談しながら、支援している。又、入居者様、御家族の希望をそのまま引き受け入居前からの、かかりつけ病院への受診も支援している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>提携病院の医師と良い関係を築いている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>提携病院の看護師に相談しながら支援している。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者様が入院した時は、医療機関と密に情報交換や相談をするようにしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>ターミナルケアの取り組みについて現在進行中であり、全員で方針を共有していけるよう、話し合いの最中である。</p>	○	<p>早急に指針、方針を作成し入居者様、御家族に宣言する。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>具体的な対応方法・手順のマニュアルを作成中である。</p>	○	<p>ターミナルケアを希望される入居者様、御家族に備えて準備を進めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人にとって、負担が小さく済む様、充分に配慮している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>誇りやプライバシーを損ねる事が無い様、常に職員全員は注意をしているが、少し、慣れ合いになってきている感がある。初心に戻って対応していく必要がある。</p>	○	<p>職員同士、お互い注意しあえる関係を築いていきたい。常に、入居者様の尊厳を配慮した声掛けや対応をしていきたい。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様の意志を尊重し、水分補給時の飲み物や、カラオケの選曲、外食時のメニュー選びなど、日常的に自己決定する場面を作っている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員は入居者様主体の生活を心がけている。出来る限り、入居者様の希望にそって、外出、買い物、入浴など実施しているが、時間などは職員側のペースで物事が進む事もある。</p>	○	<p>毎日の会話の中で、早めに希望を把握し、事前に予定が組める様にしていく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>それぞれの方が、自分なりのおしゃれをされている。月に一度出張理美容サービスを利用し、その都度入居者様のご希望をお聴きしながら行っている。又、行きつけの理美容院がある入居者様へは、そちらへ通う支援をしている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員は入居者様、それぞれの好き嫌いな食べ物を把握しており、栄養を考えながら代替品に変更をしている。食材の皮むき、味付け、食器洗い、お米研ぎ、テーブル拭きなど、入居者様それぞれが出来る事を職員と一緒にしている。献立作りは主に職員が行っているが、入居者様に食べたい物をお聞きし、献立作りをするようにしている。</p>	○	<p>調理にも参加してもらえる様、支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの状況に合わせて楽しめる様支援している。飲み物はその都度本人の希望の物をお出しするようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	全般的に自立されている。排尿回数の多い方、足の悪い方は入居時に、トイレ近くの居室を勧める等の配慮をしている。	○	フロアにトイレが二ヶ所の為、使用時重なる事が多々あり、入居者様からも苦情がある。とりあえず1Fのトイレを活用している。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯は職員の都合で行われている。何番目に入浴したいかは、出来る限り本人の希望に沿うようにしている。入浴する、しないは本人の意思を尊重し無理強いせず、タイミングを見計らい支援している。	○	職員の人数上、難しいが、入居者様の希望に沿うような時間帯の入浴も実施していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	不眠を訴える入居者様には、昼寝を減らす様にし、日中の散歩や、レクリエーションなどで、生活リズムを重視しながら支援している。夜間は、ホットミルクやおやつをお出しし、ゆっくりお話しを聴く様にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様一人ひとりの個性を大切にし、趣味や得意な事を発揮出来るような支援をしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望や状態を考慮した上で、手元に五千円前後の、おこずかいを管理して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、お墓参り、知人宅訪問、選挙の投票等の外出支援をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	温泉一泊旅行、ホテルでの昼食会、お花見等の外出支援をしている。	○	今までは職員側で提供している事が多かったが、入居者様の意見も取り入れ外出をしていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホールに電話がある為、入居者様自身もタイミングを見計らい、話しやすい雰囲気の方に自発的に利用している。手紙は代筆をしたり、年賀状作成等支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人の訪問は多い。お茶やお菓子、食事をしながら居室や、フロアでゆっくりお話しされ過ごしていただくよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	徹底出来ている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけておらず、自由な暮らしが保たれている。玄関に鈴が付いており、出入りがあれば聞こえる様に工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>フロアは狭いので、入居者様の所在や様子を把握しやすい。居室にいる場合は、こまめに様子を伺っている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>注意の必要な物品については、入居者様の手の届かない所に保管している。居室内ではその人の状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ヒヤリハットや事故報告書に記入し、職員全員が確認している。朝の申し送りや、フロアミーティングでは一人ひとりの状態に応じた事故防止の話し合いがされている。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>マニュアルは作成しているが、定期的な訓練はされていない。</p>	○	<p>職員全員が緊急時に対応できるように、定期的かつ継続的な実技を伴った研修に取り組んでいく。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練は実施しているが、地域の人々の協力を得られるような働きかけはまだである。</p>	○	<p>今以上に地域へ発信していく必要がある。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>ケアマネージャーや管理者から説明し、対応策を話し合っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	身心状態の変化等を常に注意し、気づいた事は個別日報、フロア日誌に記入し情報の共有に努めている。状況に応じて早めの受診をするようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示に基づき、服薬支援を行っている。処方内容はファイルし、確認できるようになっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	出来る限り自然に排便を促す様、対応している。乳製品、水分、食物繊維の摂取、午前、午後の体操等。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者様の力量に応じて、声掛けや見守りし、歯磨き、義歯の手入れ等の支援を行っているが、入居者様全員が毎食後はしていない。義歯の方は週一回、洗浄剤に浸ける様声掛けはしているが、拒否される方もいる。	○	入居者様全員が毎食後、口腔ケアをするよう、声掛けしていく。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとり水分摂取量はチェックしているが、摂取カロリーや栄養バランスは把握出来ていない。	○	栄養士の指導を受け、職員全員がカロリー計算出来る様に、体制を作っていく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、医療機関の協力を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	週に一度、冷蔵庫内の清掃を行い、食材は日付を確認し管理している。台所、調理器具等は毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関内には、花やぬいぐるみを置いて暖かい雰囲気を作りだしているが、建物周辺は殺風景である。	○	玄関前にプランターを置いたり、親しみやすい表札をかけるなど工夫した。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム内が明るく、家庭的な雰囲気になるよう、フロアには季節の花を飾ったり、季節の飾りつけをしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアのソファでは、新聞を読んだり、TVを見たり思い思いに過ごしている。食卓は談笑の場になっている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ほとんどの方が家庭で使い慣れた、家具、電気製品等を持ち込まれている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除、シーツ交換の時には窓を開け換気を行っている。冷暖房の調節は入居者様に確認を取りながら行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各所に手摺りが設置され、バリアフリーとなっている。</p>	<p>○</p>	<p>必要な入居者様に対して、居室内の手摺り設置を考えていきたい。</p>
<p>86 ○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレには分かりやすい表示がしてある。各居室入口には飾り棚があり、入居者様の馴染みの品や、思い出の品を飾ることにより、混乱や失敗を防ぐようにしている。</p>		
<p>87 ○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>まだ、取り組めていない。</p>	<p>○</p>	<p>物干し周辺を整備し、プランター等を設置しお花や野菜を植えて入居者様が楽しめるよう取り組んでいきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい○ ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある○ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい○ ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい○ ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者○ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい○ ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように○ ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない○ ④全くいない
98 職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが○ ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが○ ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

立地条件が街の中という事もあり、買い物や外食、散歩等を積極的に行っている。